



11月24日豊野高等専修学校で行われた映画観賞会に行ってきました。上映されたのは「ノルマル17歳。～わたしたちはADHD～」という作品です。上映後には、監督の北宗羽助さんから制作の過程についてお話を聴くことができました。



この映画のタイトルの「ノルマル」は、映画のテーマ「普通」の意味だそうです。この映画では、発達障がいをもつ2人の高校生が、家族や友だちなど周りの人たちの考える「普通」の枠の中で生きづらさを感じ苦悩する姿を描いています。この映画は、発達障がいの人の気持ちを理解するための想像力を私に与えてくれました。(特にラストシーン。気になる人はぜひ映画を見てください)

最近、学校を舞台にして発達障がいだけでなく様々な理由から生きづらさ抱える人たちをテーマにしたテレビドラマがあります。

先週のNTV「放課後カルテ」(小学校を舞台にしたドラマ)では、思ったことをすぐに口にしてしまいクラスで孤立してしまう女の子が登場しました。

NHK「宙わたる教室」(定時制高校を舞台にしたドラマ)では、読み書きが困難な学習障害を抱える生徒が登場しました。

これらのドラマはフィクションではありますが、私に、多様な価値観をもった者同士が対等な人間関係を作り、互いを尊重し合いながら共に生きていくためにどうすればいいかを考える機会を与えてくれます。